

# 学 会 録 事

## 1. 日本藻類学会第40回大会（東京）報告

### (1) 日本藻類学会第40回大会（東京）

上記大会を2016年3月18日（金）～20日（日）日本歯科大学生命歯学部にて開催した。

大会1日目は、午後に編集委員会、評議員会、第2回アルガルービー鑑賞会（コンピーナー：土金勇樹氏、早川昌志氏）を行った。2日目は、口頭発表（2会場）、ポスター発表（奇数番号）、ランチョンセミナー(1)「日立 SEM と藻類を中心としたアプリケーションのご紹介」（講演者：坂上万里氏）、ランチョンセミナー(2)「現代医療の孫の手になりつつある微細藻類 *Haematococcus pluvialis*」（講演者：山下栄次氏）、公開特別講演会「Where Do We Come From? What Are We? Where Are We Going? A South Seas view of diatom species」（講演者：Prof. David G. Mann 氏）、総会、懇親会を行った。3日目は、口頭発表（2会場）、ポスター発表（偶数番号）、ワークショップ(1)「光学顕微鏡法の技術向上のために」（講師：奥修氏）を行った。

また、ワークショップ(2)「千葉県館山の藻類採集・観察会」（講師：田中次郎氏）を3月20日（日）～22日（火）に東京海洋大学水圏科学フィールド研究教育センター館山ステーション（坂田）で行った。

### (2) 編集委員会・評議員会

大会1日目（3月18日）15:00より日本歯科大学生命歯学部本館4階第4会議室にて、英文誌および和文誌の合同編集委員会を行った。

英文誌については、WileyBlackwell社の荒生由香里氏から2015年度の出版状況・成果等をまとめた年次報告書についての説明があった。次に、神谷充伸英文誌編集委員長から「Phycological Research」の2015年度および2016年度の編集状況および年間投稿状況に関する報告があった。2015年度については63巻が総頁数317頁、掲載論文数34編であったこと、2016年度については64巻1号に7編が掲載され、2号に7編の掲載予定で、3号以降の受理論文数は2月29日現在0編であることが報告された。編集にかかる日数、投稿者の国名、2014年までのインパクトファクターの推移、新たにMoheimani氏(Murdoch University, Australia)と小亀一弘氏(北海道大)が副編集委員長として加入したこと、WileyBlackwell社と2017～2021年の契約を更新したこと、雑誌の表紙写真提供者に編集費を支出したこと等の報告があった。神谷充伸現英文誌編集委員長の任期満了に伴い、小亀一弘氏が次期編集委員長となることが確認された。2017年1月より新体制となるが、移行準備期間として2016年7月から神谷・小亀の2人体制で業務を遂行することが報告された。委員の負担軽減のため、将来的には編集委員長を2人以上で分担するなどの案が提出され、今後協議を続けることで合意が得られた。

和文誌については、畠田智和文誌編集委員長より「藻類」の

2015年度および2016年度の編集状況に関する報告があった。2015年度については63巻に4編の原著論文のほか、藻類学最前線、特集：研究奨励賞受賞記念、論文賞受賞記念、日本産海藻目録（2015年改訂版）等の報文11編、大会プログラムと同講演要旨、企画記事、学会録事等が掲載され、総頁数は218頁であったことの報告があった。2016年度については64巻の刊行計画と編集方針の説明があった。和文誌「藻類」の論文賞の制定について審議が行われ、今回は見送ることになった。原著論文審査カテゴリーにある「審査員の意見を参考に全面的に書き直した後、再投稿をすすめる」の文言を、「却下」に変更した。

評議員会は編集委員会終了後、同会場にて16:30より行われた。2016年度総会に提出する報告事項・審議事項などに関して審議が行われた。内容に関しては総会の項を参照されたい。他に、会長提案で「日本産海藻目録作成を検討する委員会」とシルバー会員の設置について議論がなされたが、評議員会での継続審議事項となった。

### (3) 2016年度総会

大会2日目（3月19日）17:00より日本歯科大学生命歯学部100周年記念館141講堂にて、総会を行った。田中次郎学会会長と南雲保大会会長の挨拶の後、真山茂樹氏（東京学芸大学）を議長に選出し、議事に入った。

### 【報告事項】

#### ・ 庶務関係

(1) 会員状況（2016年2月28日現在）：名誉会員4名、普通会員965名（国内・一般588名、国内・学生201名、外国176名）、団体会員42名、賛助会員9名、「藻類」国内定期購読17件（2016年6月1日現在）。

(2) 2015年度事業報告：1) 日本藻類学会第39回大会・評議員会・総会(九州大学箱崎キャンパス, 2015年3月20日～22日)の開催、2) 和文誌「藻類」63巻1～3号の発行(3, 7, 11月発行)、3) 英文誌「Phycological Research」63巻1～4号の発行(1, 4, 7, 10月発行)、4) 持ち回り評議員会の実施(5回)、5) AlgaeBaseのスポンサーとしてサポート(5万円)、6) 日本藻類学会特別賞・岡村賞の募集と選考、7) 日本藻類学会学術賞・山田賞の募集と選考、8) 第18回日本藻類学会論文賞の授与と第19回日本藻類学会論文賞の選考、9) 第11回日本藻類学会研究奨励賞の選考、授与と第12回日本藻類学会研究奨励賞の募集、10) 日本藻類学会第39回大会企画公開特別講演会「大型藻類の未来ポテンシャルを求めて」(2015年3月21日、九州大学箱崎キャンパス文系地区・共通講義棟302教室)の開催、11) 日本藻類学会第39回大会企画ミニシンポジウム「大型藻類バイオリファイナリー研究の最新の進捗と将来展望」(2015年3月22日、九州大学箱崎キャンパス文系地区・共通講義棟301教室)の開催、12) 藻類学ワークショップ(1)「藻類の和名に

表1. 2015年度一般会計決算(2015.1.1-2015.12.31)

収入(円)			支出(円)		
会費		5,022,000	和文誌経費		1,094,652
普通(国内・一般)	3,248,000		英文誌経費		5,782,300
普通(国内・学生)	465,000		編集費		71,156
外国会員	260,000		和文誌編集補助費	51,156	
団体会員	869,000		英文誌編集補助費	20,000	
賛助会員	180,000		庶務費		302,204
和文誌関係収入		426,300	事務用品費	72,436	
定期購読	57,300		会議費	34,560	
バックナンバー	0		通信印刷費	195,208	
別刷・超過頁代	249,000		諸雑費	0	
広告代	120,000		幹事旅費補助		0
著作権許諾料金	0		大会補助費		120,000
英文誌関係収入		1,009,884	自然史学会連合分担金		20,000
定期購読	14,000		分類学会連合分担金		0
掲載料・超過頁代	623,000		レンタルサーバー代		7,124
版權還付金	372,884		AlgaeBaseへの寄付		50,000
受取利息		1,031			
小計		6,692,815	小計		7,447,436
前年度繰越金		14,246,807	次年度繰越金		13,492,186
合計		20,939,622	合計		20,939,622

表2. 2015年度山田幸男博士記念事業特別基金会計決算(2015.1.1-2015.12.31)

収入(円)		支出(円)	
前年度繰越金	2,516,080	論文賞用雑費	33,600
受取利息	399		
普通預金		次年度繰越金	2,482,879
合計	2,516,479	合計	2,516,479

表3. 2015年度研究奨励賞事業特別基金会計決算(2015.1.1-2015.12.31)

収入(円)		支出(円)	
前年度繰越金	2,641,733	奨励賞賞金	200,000
受取利息	413		
普通預金		次年度繰越金	2,442,146
合計	2,642,146	合計	2,642,146

日本藻類学会 2015年度決算書に対し記名捺印する 2016年3月17日

2015年度 会長 田中次郎 印

2015年度 会計幹事 松岡孝典 印

決算書が適正であることを認める 2016年3月17日

2015年度 会計監事 長田敬五 印

2015年度 会計監事 芹澤如比古 印

について考える」(2015年3月22日,九州大学箱崎キャンパス・文系講義棟204教室)の開催,13)藻類学ワークショップ(2)「福岡の藻類採集・観察会」(2015年3月23日～25日,九州大学大学院農学研究院附属水産実験所・福岡県福津市津屋崎)の開催,14)和文誌「藻類」の転載許可状況(3件),15)自然史学会連合の事業に参加,2015年12月19日に東京大学総合研究博物館ミュージアムホールで開催された2015年度自然史学会連合総会に北山太樹会員が出席,詳細は「藻類」64巻1号に掲載,16)日本分類学会連合の事業に参加,2016年1月9日に国立科学博物館上野本館講堂で開催された日本分類学会連合第15回総会およびシンポジウムに田中次郎会長と鈴木秀和庶務幹事が出席,詳細は「藻類」64巻1号に掲載,17)水産・海洋科学研究連絡協議会の事業に参加,2015年5月19日および11月26日に東京海洋大学品川キャンパスで開催された平成27年度第1回協議会および第2回協議会に田中次郎会長が出席,詳細は「藻類」64巻1号に掲載,18)日本学術会議主催公開シン

ポジウム「東日本大震災による原子力発電所事故に伴う魚介類の放射能汚染の問題と今後の展望」を後援,19)和文誌「藻類」バックナンバーの学会HP上への掲載,2016年3月現在,第61巻第3号まで閲覧・ダウンロード可能,20)学会HPによる情報配信,主な掲載内容:シンポジウム等のお知らせ4件,研究助成の募集1件,諸賞の募集4件,教員・研究員の公募1件,その他のお知らせ2件,更新内容:「藻類」投稿案内,学会役員・歴代役員・研究奨励賞・論文賞等の学会資料集,大会案内,リンクの追加:「自然史学会連合」が1件,21)学会連絡メールによる情報配信,現在,283名の方がメーリングリストに登録,主な配信内容はシンポジウム等のお知らせ7件,諸賞の募集2件,その他のお知らせ2件。

#### ・会計関係

(1)2016年2月28日現在の2015年度会費納入率(雑誌発送会員を対象)は,普通会員(国内・一般)102%,普通会員(国内・学生)99%,普通会員(外国)90%,賛助会員75%,団体会

員 83%であった。

(2) 2015 年度一般会計決算等、その他の事項に関しては審議事項を参照されたい。

#### ・編集関係

(1) 2015 年度に発行した英文誌「Phycological Research」63 巻 1～4 号は、総頁数 317 頁、掲載論文数 34 編であった。

(2) 2015 年度に発行した和文誌「藻類」63 巻 1～3 号は、総頁数 218 頁、内訳は原著論文 4 編のほか、藻類学最前線、特集：研究奨励賞受賞記念、論文賞受賞記念、日本産海藻目録（2015 年改訂版）等の報文 11 編、大会プログラムと同講演要旨、企画記事、学会録事等であった。

これらに関連した詳細については、前述の編集委員会・評議員会の項を参照されたい。

#### 【審議事項】

#### ・会計関係

(1) 2015 年度一般会計決算報告および同監査報告（会計監事：長田敬五氏、芹澤如比古氏）は表 1 のとおり承認された。

(2) 2015 年度山田幸男博士記念事業基金特別会計の決算報告および同監査報告は表 2 のとおり承認された。

(3) 2015 年度研究奨励賞事業基金特別会計の決算報告および同監査報告は表 3 のとおり承認された。

(4) 2015 年度一般会計、山田幸男博士記念事業基金特別会計、

および研究奨励賞事業基金特別会計の予算は表 4、表 5 および表 6 のとおり承認された。

#### ・庶務関係

(1) 2016 年度事業計画として以下の事項が承認された：1) 日本藻類学会第 40 回大会・評議員会・総会（日本歯科大学生命歯学部、2016 年 3 月 18 日～20 日）の開催、2) 和文誌「藻類」64 巻 1～3 号の発行（3, 7, 11 月発行）、3) 英文誌「Phycological Research」64 巻 1～4 号の発行（1, 4, 7, 10 月発行）、4) 日本藻類学会会長および評議員選挙の実施（8 月）、5) 日本藻類学会編「藻類事典」（仮称）の出版、6) 藻類和名の整理に向けた「藻類和名のワーキンググループ」の設置、7) 日本藻類学会特別賞・岡村賞の授与（2016 年 3 月）、募集と選考（2017 年 3 月授与）、8) 日本藻類学会学術賞・山田賞の授与（2016 年 3 月）、募集と選考（2017 年 3 月授与）、9) 第 12 回日本藻類学会研究奨励賞の選考、授与（2016 年 3 月）と第 13 回日本藻類学会研究奨励賞の募集（2017 年 3 月授与）、10) 第 19 回日本藻類学会論文賞の授与（2016 年 3 月）と第 20 回日本藻類学会論文賞の選考（2017 年 3 月授与）、11) 日本藻類学会第 40 回東京大会公開特別講演会「Where Do We Come From? What Are We? Where Are We Going? A South Seas view of diatom species」（2016 年 3 月 19 日、日本歯科大学生命歯学部・100 周年記念館 141 講堂）の開催、12) ランチョンセミナー（1）「日立 SEM と藻類を中心としたアプリケーションのご紹介」（2016

表 4. 2016 年度一般会計予算（2016.1.1-2016.12.31）

収入（円）			支出（円）		
会費		1,120,000	和文誌経費		2,400,000
普通（国内・一般）	0		英文誌経費		4,500,000
普通（国内・学生）	0		編集費		300,000
普通（外国）	0		英文誌編集補助費	200,000	
団体会員	880,000		和文誌編集補助費	100,000	
賛助会員	240,000		庶務費		447,000
和文誌関係収入		369,500	事務用品費	30,000	
定期購読	85,500		会議費	60,000	
バックナンバー	3,000		通信印刷費	350,000	
別刷・超過頁代	160,000		諸雑費	7,000	
広告代	120,000		幹事旅費補助		40,000
著作権許諾料	1,000		大会補助費		120,000
英文誌関係収入		1,300,000	自然史学会連合分担金		20,000
超過頁代・掲載料	1,050,000		分類学会連合分担金		10,000
版權還付金	250,000		レンタルサーバー代		7,000
受取利息		1,000			
小計		2,790,500	小計		7,844,000
前年度繰越金		13,492,186	次年度繰越金		8,438,686
合計		16,282,686	合計		16,282,686
合計		21,818,457	合計		21,818,457

表 5. 2016 年度山田幸男博士記念事業特別基金会計予算（2016.1.1-2016.12.31）

収入（円）		支出（円）	
受取利息	普通預金 200	論文賞記念品	55,300
前年度繰越金	2,515,513	次年度繰越金	2,460,413
合計	2,515,713	合計	2,515,713

表 6. 2016 年度研究奨励賞事業特別基金会計予算（2016.1.1-2016.12.31）

収入（円）		支出（円）	
受取利息	200	奨励賞賞金	100,000
前年度繰越金	2,641,115	次年度繰越金	2,441,315
合計	2,641,315	合計	2,641,315

年3月19日, 日本歯科大学生命歯学部・100周年記念館141講堂)の開催, 13) ランチョンセミナー (2) 「現代医療の孫の手になりつつある微細藻類 *Haematococcus pluvialis*」(2016年3月19日, 日本歯科大学生命歯学部・100周年記念館151講堂)の開催, 14) 第2回アルガムービー鑑賞会 (2016年3月18日, 日本歯科大学生命歯学部・本館生物学実習室)の開催, 15) 藻類学ワークショップ (1) 「光学顕微鏡法の技術向上のために」(2016年3月20日, 日本歯科大学生命歯学部・100周年記念館151講堂)の開催, 16) 藻類学ワークショップ (2) 「千葉県館山の藻類採集・観察会」(2016年3月20日~22日, 東京海洋大学水圏科学フィールド研究教育センター館山ステーション)の開催, 17) 自然史学会連合の事業に参加, 18) 日本分類学会連合の事業に参加, 19) 水産・海洋科学研究連絡協議会の事業に参加, 20) 第18回マリンバイオテクノロジー学会大会 (2016年5月28日~29日, 北海道大学函館キャンパス, 函館)の協賛予定, 21) 和文誌「藻類」バックナンバーの学会HP上への掲載, 22) 学会HPによる情報配信, 23) 学会連絡メールによる情報配信。

#### ・その他

日本藻類学会第41回大会 (2017年3月23日~25日)の開催地を高知大学朝倉キャンパス (高知) とすることが承認された。

#### 【日本藻類学会特別賞・岡村賞の授与】

日本藻類学会会則第3条第4号と日本藻類学会学会賞選考規程に基づき, 日本藻類学会特別賞・岡村賞の発表と授与が行われた。今回は有賀祐勝氏が選ばれ, 賞状および記念品が授与された。

#### 【日本藻類学会学術賞・山田賞の授与】

日本藻類学会会則第3条第4号と日本藻類学会学会賞選考規程に基づき, 日本藻類学会学術賞・山田賞の発表と授与が行われた。今回は吉田忠生氏が選ばれ, 賞状および記念品が授与された。

#### 【日本藻類学会研究奨励賞の授与】

日本藻類学会会則第3条第4号と日本藻類学会学会賞選考規程に基づき, 第12回日本藻類学会研究奨励賞の発表と授与が行われた。今回は鈴木雅大氏 (神戸大学自然科学系先端融合研究環内海域環境教育研究センターマリンサイト, 紅藻マサゴシバリ目の系統分類学的研究) が選ばれ, 賞状および副賞 (賞金10万円) が授与された。

#### 【日本藻類学会論文賞授与】

第19回日本藻類学会論文賞の発表および授与が行われた。これは2015年に発行された英文誌「Phycological Research」63巻1~4号の中から, 規定に従い審査員の投票によって選ばれ, 合同編集委員会および評議員会で了承されたものである。今回は下記の論文が選ばれ, 論文の著者に賞状および記念品が

授与された。

Shinichi Miyamura, Tamotsu Nagumo, Miyuki Maegawa and Terumitsu Hori.

Rearrangement of the flagellar apparatuses and eyespots of isogametes during the fertilization of the marine green alga, *Monostroma nitidum* (Ulvophyceae, Chlorophyta). Phycol. Res. 63 (4): 284-299.

## 2. 2015年第5回持ち回り評議員会報告

第5回持ち回り評議員会 (2015年12月16日~12月25日)を開催し, 「日本藻類学会会則第3条第4号と日本藻類学会学会賞選考規程に基づき, 特別賞を有賀祐勝氏に授与する。」の可否を審議した。その結果, 国内評議員16名のうち12名から回答があり, 回答者全員の賛成により, 審議事項が承認された。

## 3. 和文誌「藻類」バックナンバーの学会HPへの掲載状況

2016年4月3日現在, 62巻1号までのPDF fileを閲覧・ダウンロードできる状況。なお, 60巻1号~62巻1号のPDF fileは分割・検索可能。

## 4. 学会HPによる情報配信と記載内容の更新

2016年4月~5月に掲載・更新した内容は, 学会資料集 (特別賞, 学術賞, 研究奨励賞, 論文賞, 大会記録・公開シンポジウム・講習会・採集会), 日本藻類学会第41回大会 (高知・2017)の日程と大会会長・実行委員, 公益財団法人発酵研究所平成28年度 (2016) 年度研究助成の募集, 「第3回ラビリンチュラ・シンポジウム~オーランチオキトリウムとその仲間たちの生物学と産業応用~」と「第20回尾瀬賞の募集と第19回尾瀬賞授賞式」のお知らせ。

## 5. 自然史学会連合

自然史学会連合が監修し, 加盟学協会から話題を募った「理科好きな子に育つふしぎのお話365」(誠文堂新光社, 2015年2月10日出版)が産経児童出版文化賞のJR賞に選ばれた。詳細については下記報道を参照されたい。

<http://www.sankei.com/life/news/160505/lif1605050020-n1.html>

## 6. 国立研究開発法人科学技術振興機構の文献情報流通促進事業について

国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)に寄贈している「藻類」と「Phycological Research」について, 下記の報告があった。

同上機構では, 平成26年度によりJST所蔵資料複写サービスにおける事業継続について検討してきた結果, 平成28年2月29日(月)をもってコンテンツシート, 受入証明の発行を含むJST所蔵資料複写サービスを終了することとなった。これに伴い, 情報資料館 (東京都練馬区旭町2-8-18)の業務は, 筑波資料センター (茨城県つくば市酒丸293)に統合し, 筑波資料センターにおいて所蔵資料の閲覧サービスを継続。JST所蔵

資料複写サービスの終了に伴い、JSTが所蔵する資料は可能な限り、他の公共機関等へ移管することで、引き続き、有効活用できる。また、株式会社ジー・サーチが提供する「JDream III」や「J-GLOBAL」等の情報検索サービス等に収録する科学技術文献データについては、これまでと同様に同上機構で引き続き作成し、サービスを継続。詳細については下記を参照された

[https://jipsti.jst.go.jp/copy\\_s/new/info20150615\\_1.html](https://jipsti.jst.go.jp/copy_s/new/info20150615_1.html)

## 7. 2016年第1回持ち回り評議員会報告

第1回持ち回り評議員会（2016年3月27日～4月7日）を

開催し、「日本藻類学会として日本水産学会創立85周年記念事業に協賛する。」の可否を審議した。その結果、国内評議員16名のうち12名から回答があり、回答者全員の賛成により、審議事項が承認された。その後、2016年6月9日、日本水産学会および日本水産学会創立85周年記念事業募金財務委員会から、本事業に関して「広く日本水産学会員や企業などに寄付や負担金つきの協賛依頼をすることになり準備を進めている。そうすると、各学協会に依頼した協賛と文言的に紛らわしくなるとの議論から、金銭を伴うものを協賛、伴わないものを後援という使い分けをすることになった。」という協賛から後援への変更依頼があったので、事務局として承認した。

# 会 員 異 動

新入会	機関名または氏名	所属機関または自宅住所
-----	----------	-------------

所属変更	氏名	所属機関
------	----	------